

国語 第4学年 考えたことを文章にまとめよう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：村の描写や人物の行動から考えたことを、物語の終わりに関係付けて文章にまとめる。美しいという題名への印象が、読み進める中でどう変わるかを叙述から確かめる。C(1)オ・C(1)カの学習として、読んで考えたことの文章。村の描写や行動の根拠、終わりとの関係、交流で気付いた別の見方を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、物語を読んで感想や考えをもち、交流で着目した叙述や感じ方の違いに気付いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：読んで考えたことの文章を残す。村の描写や行動の根拠、終わりとの関係、交流で気付いた別の見方を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：戦争や国についての一般論だけになる。最後の文だけで感想を書き、前の場面が根拠にならない。これについて、村の様子と人物の行動を記録し、初読と再読の考えを並べる。背景の説明は本文を読むために必要な範囲とし、児童の感じ方を特定の主題語にそろえない。〔知識及び技能〕(1)オとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「村のどんな様子や人物の行動が印象に残りましたか。終わりまで読むと、その場面についての考えはどう変わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：読んで考えたことの文章は紙に記録できる。村の描写や行動の根拠、終わりとの関係、交流で気付いた別の見方を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：題名の美しさを一つの意味に決めるのか。

返し：C(1)オ・カに沿って、叙述を基にした異なる感じ方を扱う。景色、人の関係、暮らしなど、何を根拠にしたかを確認して考えをまとめる。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「村のどんな様子や人物の行動が印象に残りましたか。終わりまで読むと、その場面についての考えはどう変わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

